魯迅作『孔乙己』を読む

―読解から作文へ―

深川賢郎

はじめに

周囲にさまざまの問題があっても、それらに対して新鮮な眼を向けることは案外にむずかしい。この授業では、『孔乙己』を刺激材として、生徒達をとり巻いている「身のまわりの問題」に対し、改めて注目させようとしたものである。

授業の展開は三つの過程から構成されている。第一次は読解を中心とした作業、第二次は身のまわりの問題を考える作業、第三次は「私の問題提起」を書く、となっている。また、第一次、第二次の終わりにそれぞれ自己評価をとり入れ、第三次のあと、テストと作文の評価を行った。

一　研究主題

1　文学作品を読むとき、その作品を自己とのかかわりにおいて、より深く味わわせるにはどうしたらよいか。

2　評価を組み込んだ授業はどうあればよいか。

二　教材への視点

この作品は、作文単元の中の〈参考〉として採用されているもので、授業での扱いは指導者に委ねられた形として配置されている。中心教材としては、高校生の書いた二つの読書感想文「『孔乙己』を読んで」と「孔乙己よさようなら」がある。ここは、読書感想文の書き方を目標とされた単元である。（筑摩書房「現代国語3」）

『孔乙己』は、大きな事件の展開もなく、主人公孔乙己の敗残者の姿が描かれており、主題をとらえるにはやや難解な作品である。この作品を読みほぐすには、二つのことを要求されているように考えられる。一つは、作者魯迅をとりまく世界（中国のその当時の実態）についての基礎知識である。いま一つは、述べられている事実の裏に托された深い意味を読み抜く力と努力である。字面にあらわれていることばのやりとりや、描写だけでは、とうてい深い読み取りができそうにない。その意味では難解な作品といえそうである。

〈作者について〉

魯迅の少年時代から青年時代への過程を見つめていると、つぎのような変遷のあとをたどることができる。

○祖父の科挙にまつわる暗い事件。
○魯迅の父の病気・死＝非科学的な漢方の治療と、そこから帰結する病人や家族の不幸にめざめる。
○医師（現代医学の）をめざして日本に留学する。
○日本の大学にいるとき、スライドを見、自分の国、中国の人々の「愚弱」な「精神の改造の必要性」にめざめる。
○作家に転向し、中国の人々に働きかける決意をかためる。中国に帰って中国の改革のために生涯をささげる。

この角度から魯迅をとらえると、作品そのものが民衆に問いかける問題提起の書といえる。さらに『阿Q正伝・狂人日記』（岩波文庫）の自序に、つぎのような一文がある。

「愚弱な国民は、たとい体格がどんなに健全で、どんなに長生きしようとも、せいぜい無意味な見せしめの材料とその見物人になるだけではないか。病気したり、死んだりする人間がたとい多かろうと、そんなことは不幸とまではいえぬのだ。されば、われわれの最初になすべき任務は彼らの精神を改造するにある。」（上掲書8ページ）

魯迅は、生きることの質を問うている。主体的な人間として、自己の意志で生きる人間を志向している。それは、古い中国からの脱皮である。儒教や、それを母体として生まれた古い道徳、科挙の制度が持つ矛盾、中国人の無気力などに対する働きかけである。

試験による人間破壊、旧習による社会の矛盾、不合理、こうしたさまざまな要素がこの作品にある。そして、この提起されている一つ一つは、必ずしも革命以前の中国だけの問題ではない。魯迅のさし出すレンズで、私達の身のまわりを見ると、さまざまな問題が見えてくる。『孔乙己』はこの点から見て、貴重な教材となり得る。

＜行間に托された意味＞

外山滋比古氏（お茶の水女子大学）は「未知を読む」ということを提唱されている。その中で、α読み、β読みという読み方が指摘されている。α読みとは既知を読むということで、字面をたどればそのまま書かれている内容が読み取れるという読みをいう。たとえば、スポーツニュースの記事を新聞で読むように、一読して意味のとれるものであり、結論もほぼわかっているばあいの読みをさしている。それに対して、β読みというのは、未知を読むということばのとおり、表現の背後に托された深い意味を汲み取る読み方をいう。読む側は主体的に判断し、探りあてながら意味を把握していく読み方である。

『孔乙己』には一連の出来事が書いてある。しかし、どこを見ても、これを訴えたいという問題提起のことばはない。下手に読むと、村の居酒屋で、一人の人間が笑いものにされたというだけのことにすぎない。この作品から、何を読み取るべきか、そこに読み手の手腕の見せどころがあるといえよう。この作品が難解なのはこのあたりの事情によると考えられる。たとえば、

「孔乙己は、立ち飲みの仲間で長衣を着ているただ一人であっ

た。背がおそろしく高く、青白い顔色をして、しわの間によく生傷の跡があった。ごま塩のあごひげをぼうぼうに生やしていた。着ているのは長衣にはちがいなかったが、汚れてぼろぼろになっていて、まるで十年以上も繕ったり洗ったりしたことがないふうだった。」

というようなばあい、「長衣」は、上流階級の人が身につける上等の服である。孔乙己がこの長衣を着ている限り、彼は半てん階級の人々（ここでは下層の人々）とは違う。しかし、「十年以上も繕ったり洗ったりした」様子がないのは、孔乙己のプライドが上流にありながら、生活は半てん階級と同等、もしくはそれ以下であることを示している。要するに孔乙己の気位のあり所と、現実生活とは一致していない。前後を読みあわせると、滑稽なばかりにアンバランスであることがわかる。

こうした解釈を行いながら読み手は絶えず判断させられる。こうした読みが「未知を読む」（β読み）といえよう。実は、われわれは日常でもこうした「判断」を随所にしているのである。この作品では、この点を特に意識して扱うによい面があると考えられる。

三　評価の組み入れについて

この授業計画は九時間である。その中を三次の学習過程に分け、それぞれの段階に個人作業が多く配置されている。そのため、生徒の授業に対する反応や、作業の遅速が予想され、また、行き詰まりや偏向、あるいは部分的なとらえ方しかできないばあいも想定される。こうした心配を補うために、学習活動の節目節目に自己評価を採り入れてみた。自己評価によって、未消化の部分や、偏りに気付かせ、欠落した部分をモデルの解答によって補填するやり方である。

第一次は「読み」について自己点検し、モデルの着眼点と解答によって欠落を補い、教室全体の読みのレベルを一応の線まで揃えた。これには進度の補正の意味もある。

第二次のあとでは、作品に提示されている問題点を、どの項目についてどんなふうにとり上げることができたか、をまず確かめる。つづいて、それらのとり出された問題点から自分達の身のまわりの問題とどれだけ重なっているものがあるかを採らせた。ここでも、進度の補正と、生徒の作業の偏りの修正、一定レベルまでの深化という点から自己評価を試みた。

第三次の応用読解及び作文「私の問題提起」は、提出により教師の側で採点することとなった。これが最終評価である。

四　実践の内容

(一)　単元のねらい

文学作品を読むことによって、自己をとりまく状況を見つめ、矛盾や不合理のあることがらを批判的にとらえる力をつける。

(二)　指導目標

1　文学作品の表現の背後に托された意味を深く読む力をつけさせる。

2　作品を自己とのかかわりにおいて読み味わわせる。

3　身のまわりにある問題をしっかりととらえ、それに対処する姿勢を育てる。

(三)　指導の過程と内容

導入	① 35分	・魯迅の紹介
	② 15分	・作品の通読（指名読み）
展開（第一次）	③ 150分	・課題に従って作品を読む。
	④ 20分	・読みに関する自己評価。
	⑤ 20分	・各自で主題をまとめる。
	⑥ 10分	・主題の整理・まとめ（授業者）
展開（第二次）	⑦ 50分	・第一次で読み取った「問題点」の整理 1 職人の特性から 2 科挙の制度について 〔孔乙己のばあい〕 〔丁挙人のばあい〕
	⑧ 35分	・上記でまとめた問題点を手がかりにして、身のまわりの問題を探る。それをメモする。
	⑨ 15分	・「問題点」のモデルによって、上記⑦の作業を自己点検する。 ・モデルの「問題点」から触発された身のまわりの問題があればそれを追加する。
展開（第三次）	⑩ 50分	・上記⑧⑨の作業の結果としての「身のまわりの問題」の中から一つ選んで「四〇〇字提言——私の問題提起」を書く。
	⑪ 50分	・「小さな出来事」をβ読みの観点から読む。
	⑫ 20分	・全体のまとめ

◎導入では次のことを説明した。

(1)　魯迅の簡単な生い立ち（祖父と科挙に関する事件・父の病気と漢方による治療など）

(2)　科挙の制度（厳しい受験勉強・落伍者・古い学習内容など）

(3)　授業の展開計画の紹介など

◎展開（第一次）

生徒はプリント「課題」（資料1）によって、各自、教科書本文を読み深め、メモを取っていった。「意味の托されている部分」という意味がよく理解できない生徒がいたので、教室全体に、具体例を提示して説明をした。

また、魯迅の成長した中国の時代背景、科挙の制度の中における「挙人」の資格・地位などを追加説明した。

作業の進行は、隣りの席の生徒どうしで話しあうばあいもあり、探しあぐねている生徒には机間を回ってヒントを出し、援助した。150分後に「自己評価モデル」（資料2）を配布し、各自のメモと照合させ、評価をし、最後に「考察」のメモをさせた。自己評価の用紙は提出とし、残りの時間で主題をまとめさせ、カードに記入の上提出させた。そのあとで、あらかじめ用意していた主題を板書し

た。

◎展開（第二次）

第一次で探し出した「問題提示」と考えられる部分の整理と、自分達の身のまわりの問題の発掘が主な作業である。

まず、資料4「問題点の整理」（プリントの上の欄）に三項にわけて魯迅の問いかけようとしたであろう事柄を整理する。つぎにこれをもととして（一つのヒントとして）身のまわりに共通する例がないかを考える。その結果出たものが「身のまわりの問題」である。（資料4の下欄）

また、問題点の整理が偏りなく行われているかをチェックするために「問題提示のモデル解答」（資料5）を配布、生徒各自で自己評価をし、欠落している部分の補充をし、さらにそこから考えられる身のまわりの問題を追加させる。

◎展開（第三次）

第二次の作業の結果をふまえて、第三次の作業に入る。「身のまわりの問題」の中から一つだけとり上げ、自分の述べたいことを原稿用紙一枚（四〇〇字）にまとめる。条件として、具体的事実と主張をはっきりさせることを大切にさせる。例文は資料6の(A)(B)。提出された作品の主題の分布は左のとおり。

1　入試制度・受験体制　15人
2　学校教育の矛盾・学習内容　10人
3　学歴社会・社会体制　4人
4　人命軽視　2人
5　他校生への優越感　2人
6　主体性・意欲の喪失　2人
7　自殺・エゴイズム・物質中心主義・権力者の体質・その他　各1

科挙の制度が生徒の印象に強く残り、そのためか、受験勉強に忙殺される自分達のことが前面に出て来ている。

これらの作品は内容として二つの観点から評価した。主張がはっきりしているか、具体的事例が組み込まれているかの二点である。段階としては「上」「中」「下」の三つに区分をした。一クラスあたりでいうと、「上」10編、「中」25編、「下」10編の割合である。「小さな出来事」のβ読みについては、本文を上段にコピーし、下段に記入欄をつけてみた。主人公と車夫の心理や価値観が読み取れる部分に傍線を引かせ、その下の空欄に読み取れる意味を記入させた。

この評価は、傍線の部分と、その読み取った意味内容との二つの点を見た。30点満点で平均は24点となった。

(四)　授業を終えて

この9時間の授業は忙しさに追われた。生徒もそういう印象を抱いたであろう。反省すべき点は多くあるが、とりわけ、生徒の言い分を表現する時間が少なかったことがあげられよう。第一次の読み深めでも、問題提示の内容整理でも、生徒独自の分類規準や方法があったと思われる。

つぎに、グループ学習などの方法により、生徒どうしの深めあいや生徒と授業者による発見をもう少し組み入れるべきであった。

指導目標の1に関して、もう一つもの足りない成果しか上げることができなかった。

指導目標の2に関しては、かなり充実感をおぼえたようである。これは、指導目標の3ともからんで、四〇〇字作文にしっかりとしたものを収めることができたことで一応の成果と考えたい。ちなみに、この四〇〇字提言は、安古市高校生徒文集「高苑」第二号に掲載することができた。一クラス6編の三クラス分で、18人の提言が活字になった。ともかく生徒の一人一人が身のまわりの問題や矛盾に大きく眼を注いだことは大切なことであったと考える。

五　まとめ

魯迅の作品は控え目な表現で、事実の描写を冷静に行っている。解説や饒舌な文章に慣れていると当惑する要素を持っている。このような作品を読みほぐしていくには、はっきりと文章の背後（行間）に目を向ける手だてをすることが必要であろう。たまたまこの作品には、現代の日本にもあてはまる固陋であなどり難い要素がある。文学の典形をとうして現実を見定めるという手順は、このばあい有効であろう。

作業の間にとり入れた「自己評価」は大変大ざっぱなもので、あるいは、生徒の中には不満や疑問を抱いたむきもあると考えられる。読み深めるべき部分の提示、その読みを誤まったばあいの対処の方途など、もう少しきめのこまかい対策を立てておくべきだったと反省している。

しかし、9時間くらいの流れを持つ授業構想では、途中ではみ出したり、それていく生徒をなくする手だてとして、途中で何回か歩調を整える確認作業が不可欠となろう。そういう意味からすると、一つの試みとしての効果を持っていると思う。

資料3の自己評価の一覧表などについても個々の生徒の内容を読み深める必要があると考えられるが、これも十分な考察・分析を加え得ないままとなっている。

生徒に内部の高まりがあると、かなり作文嫌いな生徒でも書く。今回の授業は読みもねらい、書くこともねらったわけであるが、どちらかというと書くことに効果があったようである。書き方の技術的指導も低学年では必要であろうが、三年生くらいでは、むしろ、問題意識や切実感の方が大切ではないかという気がする。こうしたことも、今後の課題として考えてみたい。

以上

（広島県立安古市高等学校教諭）

資料1「課題」

表現の背後に意味の托されていると考えられる部分を、左の観点で抽出し、上欄に記入せよ。また、抽出された部分から読み取った意味を下欄に記入せよ。

根拠となる部分の抜き書き	読み取った意味
1 「職人たち」の特性のうかがえる部分。（記入らんは省略――以下同じ）	
2 孔乙己の人柄のうかがえる部分。	
3 「主人」は孔乙己をどう見ているか。	
4 「わたし」は孔乙己をどう見ているか。	

5 孔乙己のした学問はどんなものであったか。		
6 科挙の制度は孔乙己・丁挙人にどう働いたか。		
7 丁挙人の家で足を折られた孔乙己はどうかわったか。		

二 右の読み深め、および自己評価のモデルを参考に主題をまとめよ。

資料2「自己評価モデル」

1 「課題」の記入を左のモデル解答によってチェックし、○×△の符号で下の空欄に記入せよ。

2 評価は左の計の欄に集計し、自分の作業の成果の気付きを「考察」欄に記入せよ。

教科書にある根拠	判断	評価 根拠	評価 判断
1 職人たちの特性			
(1) 一杯の茶碗酒を買い、〜ぜいたくなまねはまずのぞめない。	○ひどく貧しい、しかし、改善しようとしない	○	○
(2) 酒がかめから汲み出されるところをたしかめ、銚子の底に水がないかを確かめる。	○目先の損得に対して敏感	×	△
(3) 孔乙己をからかう（数個所）。	○失敗者を笑う↓下を見てくらす	〃	×
(4) お前、どうして秀才の卵にもなれなかったんだい。	○弱者を傷つける	〃	〃
(5) 丁挙人のものが盗めるかってんだ。	○勝者を畏れる	〃	〃
2 孔乙己の人柄			
(1) 背が高く青白い顔をしている。	○体力のないインテリ	〃	〃
(2) しわのあいだによく傷がある。	○人から暴力を受ける	〃	〃
(3) 長衣は着ているが、よごれている。	○プライドは高いが、実力不足	〃	〃

(4)	「なりけりあらんや」を言う。	○知識をひけらかす
(5)	論語を引用する。	○権威によりかかっている
(6)	酒好きの仕事嫌い。	○生活意欲の喪失
(7)	酒の借金をひきのばしたことがない	○プライド・小心・几帳面
(8)	字の書き方を試験する。	○知識をひけらかす
(9)	子供に豆をやり、相手をする。	○純粋さ・子供との共感
3	主人は孔乙己をどう見ているか。	
(1)	(店員である「私」が孔乙己を笑っても)「私」をしからない	○大切な客と考えず、見下している
(2)	主人も孔乙己を笑いものにしている。	○〃
4	「わたし」は孔乙己をどう見ているか。	
(1)	乞食同然の男が私を試験する資格があろうか。	○ばかにしている
(2)	こっけいでもあり、うるさいので……。	○話しかけられるのを嫌っている
5	孔乙己の学問の性格	
(1)	「なりけりあらんや」(文語)	○日常性に欠けることばづかい
(2)	「君子もとより窮す」(論語)	○古くさい教養をよりどころとする
(3)	主人は「茴香豆」を帳面につけない。	○実用性のない学力
(4)	回を四とおり書ける。	○単なるもの知りで実用性がない
6	科挙の制度はどういう意味を持つか。	
(1)	孔乙己について	○実生活に無用な学問をし ○プライドだけは高いが生活力に乏しい ○試験に挫折し、生活意欲に欠ける ○自己の地位や財産を守るのに懸命で、野蛮・非情である
(2)	丁挙人について	○試験の成功者として地位・名誉を持つ

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

7 孔乙己の変化について (1) 足を折られるまで (2) 足を折られて	○プライドが高く、ゆずらない ○心の支えもなくなり、完全な敗者となる		考察
		〃 〃	
		〃 〃	
		〃 〃	
		〃 〃	
		〃 〃	
		計	

自己評価の結果の分布と「考察」

○―根拠の抽出で正解
●―判断の仕方で正解
×―判断の誤り
△―判断の半解
空らん―根拠の抽出なし

考察	主題	×	△	●	×	○	2	1	7	5	4	3	2	1	6	4	3	2	1	5	2	1	4	2	1	3	9	8	7	6	5	4	3	2	1	2	5	4	3	2	1	番号／氏名
性格・内面のよみがいけない	△	11	1	17	6	16		●		●	●		●			⊙					⊖				⊙	⊙		⊙		⊙	⊙		⊙	⊙	⊙	○			⊗	⊙	⊙	⊙	1
判断がまずい	○	11	8	10	10	12	△	●		●	●	△	●			△			⊙		⊙	⊙		△	△				△			⊙	⊙				△		○	△		2
判断が中途半ばである	○	12	9	8	5	17	●	△		●	△	△	●			⊗			⊗		⊗	⊗		△	△		⊙	△	⊙			⊙	⊙	⊗	△		⊙		△	△	⊗	3
内面がよめない	○	20	4	5	14	8				●						△						⊙							⊙			⊙	⊙							△	⊙	4
深く考えて読んでいない・	△	23	2	4	14	8										⊙			⊙					△			⊗			⊙		⊗			⊙						△	5
人柄ができなかった	X	14	7	9	10	12	●	△		●	●	●	△			△			△		○			⊙			△	△	△				⊙		△				⊗	⊗	⊙	6
β読みがいけない	○	21	5	3	15	7				●						⊗	⊙				⊖			⊙					△	⊙											△	7
きりげない表現をみのがした	○	16	6	7	10	12	△			●		●	●			△			⊙		⊙	⊙			△		⊗	⊗	⊙	△		⊗							△		△	8
表面だけよんだ	△	23	2	4	15	7	△					●	●						⊗			⊙		⊙								△			△				⊗	⊗		9
人柄がよめていない	○	18	6	9	12	10	△	△		△		△	●	△		⊙		⊙			⊖	⊙		⊙	⊙					⊗		⊙								⊙	⊙	10
あまり深く考えていなかった	X	19	6	3	15	7				●			△	△								⊙		△			△	○	⊙				△								△	11
βよみがまずい	△	25	4	1	16	6	△															⊙		⊗						⊗										△	⊗	12
注意深くよむこと	○	14	5	10	12	10	●	●		●		●	△			△						⊙			⊙		⊙	△	△	△		△										13
βよみがいけない	○	18	11	0	6	16	△	△		△	△	△				⊗	△	⊗			△	△			△		⊗	⊗	⊗		⊗		△		△		⊗			⊗	⊗	⊗	14
何がいいたいのかわからない	X	8	3	17	7	15	●	●		●	●	●	●	△			⊙		⊙			⊙		⊙	⊙		△		△	●		△	⊙	⊙						⊙	⊙	15
人柄がよめていない	△	16	7	6	10	12	●					△	●			△		△	△		△	△		⊗					△		⊙		△				⊙	⊙		△		16
判断がまずい	○	17	2	10	13	9		△		●			●	●			⊙		⊙					⊗					⊙	⊙		⊙		⊙							⊙	△	17
こまかい点が弱い	○	12	6	11	11	11	●	●			△	●		●		△	△				△	△		△	△		⊙		⊙	⊙		⊙							⊙			18
判断が浅い	○	9	6	14	2	20	●	●		●	△	●	●			⊗	⊗	⊗	⊗		△	△		⊗	⊗		⊙	⊙	△	⊙	△	⊗	⊙	⊙	⊙				⊙	⊙	△		19
表面しかとらえていない	○	10	7	11	9	12	●	●		●	△		●	●		△						⊙			△				⊙	△			⊙	⊙		△		⊙		△	⊙	△	20
〃	△	19	●	10	15	7	●				●		●	●								⊙								⊙	⊙		⊙						⊙	⊙	⊙	21
判断が弱い	X	21	0	8	14	8					●					⊙		⊙			⊙	⊙		⊙	⊙						⊗									⊙		22
ヒントがあればいい	○	15	7	7	13	9	●	△		●	△	●	△	△					⊗		⊙	⊙		△	△				⊙	⊗						⊙				△		23
注意深くよむこと	○	19	1	8	10	12	●			●		●				○		⊙			⊗	⊙		△	△				⊙	⊗	⊗									⊗	⊗	24
とらえ方にあいまいさがある	○	10	3	16	6	16	●	●		●		●				⊙	⊙		⊙		△	⊙		⊙	⊙		⊙	⊗	⊙	△		⊙	⊙		⊙					⊙	△	⊙	25
判断があまい	○	13	9	7	7	15				●	●	△	●			△		△			⊙	⊙		△	△		⊙		⊙	⊙			△	△	△		△		⊗	△	△	26
〃	○	13	4	12	8	14	●	△		●	●	●	●			⊗	⊙	△			⊙	⊙		⊙	⊙		⊙		⊙	⊙		⊗	⊙							⊙	⊗	⊙	27
ぼく然としかつかめても根拠が出しにくい	○	10	0	19	9	13	●	●		●		●	●	●		⊙	⊙		⊙		⊙	⊙		⊙	⊙		⊙		⊙	⊙		⊙			⊙						⊙		28
内容のとり方があまい	○	4	10	15	4	18	●	●		●	△	●	△	△		△		△	⊙		⊙	⊙		⊙	⊙		⊙	⊙	⊙	△	△	⊙	⊙					△	⊙	△	△	29
判断にまちがいが多い	○	17	2	10	8	14	●	●		●			●			⊗	⊙		⊙		⊗	⊙		⊙						⊙		⊗							⊗	△	⊙	30
〃	○	16	7	6	5	17	△			●		●		△		△		⊗			⊙	⊙		⊙	△		△		△	△	⊗	⊗			⊗		⊗	⊗	⊗	⊗		31
主人公がうまくつかめていない	○	14	5	9	8	14	△			●		●		●		⊗		⊙			⊙	⊙		△	△				△	⊙				⊗	⊗				⊗	△	⊙	32
判断があまい	○	14	3	12	9	13	●	●		●			●				⊙	⊙			⊙	⊙		⊗	⊗				⊙		△		⊙		△		△				⊙	⊙	33
主人公がつかめていない	○	12	5	12	10	12	●	●		△		△	△	●		⊙	⊙		△		⊙	⊙		⊙						⊙	⊙								⊙	⊗	△	34
判断にいま一歩	○	14	2	14	7	15				●	●		●	●		⊗		⊙	⊙		⊙	⊙		⊗	⊗		⊙		⊙	⊙		△		⊙						⊙	△	⊙	35
主人公がうまくつかめなかった	○	11	9	8	7	15	●	△		●	●	●	△	△			⊗	⊗			⊙	⊙			⊗			⊙	⊗	⊗	△	⊗	⊙				△	△	⊙	△	⊙	36
根拠をみのがした	○	9	6	14	7	15	●	●		●		●	△	●		⊙			⊙		⊙	⊙		△	△		⊙		⊙	⊙		△	△		⊙					⊗	△	37
はっきりつかめていない	○	9	8	12	8	14	●	●		●		△	△	●			⊙					⊙		△	△		⊙	△	⊙	⊙	△	⊙	△				△		⊙	⊙	⊙	38
読み方が荒かった	○	10	5	14	7	15	●	●		●	△	●	●			⊙		△	△			⊗						△	⊙	⊙		△	⊙				△	⊙	⊗	⊙	⊗	39
判断がずれている	○	5	9	14	4	18	△	△		●	●	△	●	△		⊙		△	⊙		○	⊙		⊗	⊗		⊗	⊙	⊙	△	⊙	⊙						⊙	△	⊙	△	40
内面がうまくとれていない	○	7	6	15	4	17	●	●			●	△	●	△		△		△	⊙		△	⊙		⊙	△		⊙		⊙	⊙		⊙	⊙		△				⊙	⊙	△	41
時代背景が大切だ	○	11	9	9	9	13	●			●		△	△	●			⊙				△	⊙		△	△			△	△		⊙	⊙	⊙	⊙			⊙				△	42
判断がわるい	○	17	2	10	9	13		△		●			△	●				⊙			⊙	⊙		⊗	⊗		⊙	⊗	⊗		⊙	⊙		⊙					⊙	⊗	⊙	43
心理をよみおとしている	○	12	8	17	8	14				●			●	●		⊙	⊙					⊙		⊙	⊙		⊙	⊙	⊙	⊙		⊙	⊙	⊙	⊙					⊙	⊙	⊙	44

資料4「問題点の整理」と「身のまわりの問題」（記入例も）

1 「課題」「自己評価モデル」をもとに、「職人・孔乙己・丁挙人」の三つに問題点を整理し、作者の訴えをまとめよ。（上欄）

2 作者の問題提起をもとに、自分達の身のまわりに共通するものを探し、記入せよ。（下欄）

作品から受けとめた問題提起	職人像より	孔乙己より	身のまわりの問題
◎目先の損得に対する注意深さ 自分自身の生活を向上させようとすることはなく、未来を切り開いたり、今の社会を批判することもなく、無気力にその日、その日を暮らす。最も関心を示し、注意することは目先のちっぽけな損得だけである。 ◎勝者をおそれ、敗者を笑う 科挙の制度によって決定される身分制度に対して批判することもなく従い、勝者に対しては、おそれ敬うが、敗者に対しては冷酷にあざ笑う。自分達の唯一の楽しみが敗者を笑うことだという退廃的な心の狭い人間である。	◦のんだくれのなまけもの、挫折による意欲喪失・科挙の制度の失敗により、生活意欲を喪失し、自分自身の手で生活を向上させ、未来を開こうとしない。学問はあっても実生活には役立たず、経済力がない　◦古めかしい教養 ◦教養をひけらかす　◦断片的な知識のつみ重ね、プライドが高い為、庶民に負けることを好まず、自分が学問のあることを誇示し、相手の弱さを見せつけようとする。また論語という権威をかりて言いまかそうとする狭い心。しかし、その学問は庶民に対して無力で無意味であった。 ◦エリートにも庶民にもなれない孤独。	◦会社などで、上役にはお世辞を言い、自分より下のものには厳しくしたり、やつあたりしたりする。 ◦有名進学校の人が、万引きをしたりすると、すぐその人を許してしまう。 ◦バーゲンセールなどで、われ先に商品を買おうとする。 ◦政治に関心を持たなくなっている。 ◦汚職をしたりしている人を再び国会へ送り出したりする。
			◦無気力で無関心になっている。 ◦大学受験に関する勉強しかしない、また大学を出ても就職先がない。 ◦現在の勉強には、実生活に役立たないものが多い。 ◦学校の教育から落ちこぼれた人は、努力してはい上ろうとすることなくズルズルと不良の道へ入っていったり登校拒否などになってしまう。

ちっぽけなプライドがあるため、庶民にもなれず、科挙の制度に失敗したのでエリートにもなれず、みじめな生活を送っている。	丁挙人より
○野球の応援の時、エリート高校が相手高校に対して「落ちこぼれ！」とやじを飛ばしたりする。 ○エリートは何をしても許されるという心を持っていて、万引きなどたくさんしたりしている。 ○政治の汚職をしても、自分の罪を認めず、再び立候補する。	○野蛮、非情 科挙の制度に成功したので、他の人から、敬われ、おそれられている為に、自分が最も偉いのだというエリート意識ができ、権力を濫用して、敗者に対して非情で冷酷である。科挙の制度によって心が歪められている。

資料5 「問題提示のモデル解答」と生徒による自己評価の結果の一覧表

（○―モデルに重なる　△―半解　空らん―解答なし）

問題のモデル解答 ＼ 生徒番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
職人像より	① 目先の損得に敏感	△	○	○			○	○	○	○	○		○	○		△	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	② 敗者を笑い、勝者を畏れる	○	○	△			○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	③ 生活意欲の喪失				○			△						○						○									○				○													
孔乙己より	① 日常性に欠ける学問	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	② 古くさい教養	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○				○		○	○	○	○	○		○		○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	③ 断片的なもの知り	○			○	○				○	○										○		○		○					○	○						○	○			○	○				
	④ 気位のみ高く生活力がない							△								△	△			○	△			△									○													
	⑤ 挫折による意欲喪失	△		○	○	○				○	○	○	○	○		○			○	○		○							○	○	△	△	○								△			○	○	○
丁拳人より	① 自己中心主義者	○											○	○						○		△		△	○				○								○	○	△		○				△	○
	② 非情な人柄	○	○		△	○	○	○			○	○			△		○	○			○	○								△	○	○	○				○			○						△

その他の指摘（生徒のメモにあったもの）

- 権力を暴力にかえる・職人の貧しさ
- 学問が権力を得る手段となっている
- 勝者の人間性喪失
- 勝者の横暴
- 生活の不安
- 学問―権力
- 勝者の横暴
- 科挙による貧富のふりわけ
- 無学な庶民
- 学問―権力
- 無学な庶民
- 自己ギマン・出世主義
- 学問―権力
- 敗者への軽視
- きびしすぎる科挙
- 科挙の不公平
- 政治への無関心
- 学問―権力
- 出世のための学問
- 出世のための学問
- 権力を得るための学問
- 人間性を欠いたリーダー
- 身のまわりの矛盾に気付かない人々
- 科挙の合格＝権力
- 人間を追いつめる科挙

資料6のⒶ生徒作品「私の問題提起」①

「生活意欲の喪失」

現代の学校教育は、くずれてきているように思える。テストや成績のためだけの勉強、その場限りの知識、これでは実生活に役立たないだけでなく、自分の生活に飽きたり、生活意欲がなくなってしまうのも当然である。青少年の非行とか自殺が増えているのもこのことがやや関係しているのではないか。何かをやりたい、でもそのやりたいものが何であるかはわからない。そのことを考えているうちにも時間はどんどん過ぎていく。このあせりがやがて絶望へと変わっていき、自分の一番大切な時を絶ってしまう。しかし、自殺するよりも恐ろしいことは、まわりのいわれるままに疑問を持つことなく生きて、表面的に人生のレールはすばらしく決定しているが、人間の一番大切なもの、人間本来のものがなくなってしまうことである。ここではもう生活意欲などまるでない。現代の学校教育がこのようなしくみを完成させたのではないか。もっと生きることをみつめなければならない。

資料6のⒷ生徒作品「私の問題提起」②

「無意味な学問?」

私達が今、必死になってやっている受験勉強。その中に「こんな物が本当に役立つのだろうか?」と思う科目がある。二年の時に習った物理、地学、そしてもう六年間も習ってきた英語、これらが一体何の役に立つのだろうか。専門分野に進まない者に、落下の法則だの、星までの距離の求め方だの、私には全く無意味なものに思えて仕方がない。すべては、目標に到達するためだから…。と言われればそれまでだが、苦しい思いをして憶え、つめ込んでいる物が、将来役に立つのかわからない物では、勉強してもつまらないし、ばからしくさえ思える。たぶん私は、今の状態からぬけ出したいあまりに、無意味な役に立たない物だと思い込もうとしているのかもしれない。たとえそうだとしても、今の受験勉強に対する不満が一気に爆発してしまった。役に立たない物をやたらしこしこつめ込んでいる私達は、受験勉強にしばられた、ただのロボットにすぎない様に思う。甘いかな?。